

地域計画

策定年月日	令和8年3月 日
更新年月日	( )
目標年度	令和12年度
市町村名 (市町村コード)	村田町 (04322)
地域名 (地域内農業集落名)	村田地区 (本町・荒町・内町・本郷・小泉西町・小泉中・小泉東・姥ヶ懐・足立東・北向・足立西上・足立西下・薄木)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	504 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	446 ha
② 田の面積	322 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	124 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	48.7 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	38.1 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。  
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。  
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。  
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。  
 5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。  
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

<p>昭和初期において村田、小泉地区において10a区画を基準とした基盤整備がなされ、近年では平成14年度に薄木地区、令和3年度には針生前地区において1ha区画を基準とした基盤整備が行われている。しかし、この2地区以外のほ場は、道路が狭小であるために大型の農業用機械が活用しづらく、耕作面積が小規模の農家や不在地主が増加していることから、農地の集積、集約化が進んでいない。また、平成29年度からは小泉地区においてほ場整備に向けた世話人会による話し合いが行われているが、事業の実施には至っていない。</p> <p>地域の中心経営体となる認定農業者は、受託する農地が点在しているケースが多く、多くの農家から委託希望があるものの、これ以上の面積拡大が困難な状況になっており、早急な農地の集積、集約化が強く求められている。</p> <p>また、近年イノシシの被害が拡大しているため、地域ぐるみで有害鳥獣侵入防止柵の設置を行っている。</p>
---

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

<p>当地区は水稻の作付けが中心となっているが、畑地においては町特産作物であるソラマメ・スイートコーンの作付けが行われている。農業者の高齢化が進んでいることから、農業法人・認定農業者・担い手等の話し合いを継続し、将来にわたって安定的な農業経営が継続できるよう、ほ場の集約化に向けた取組を推進する。</p>
--

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地バンクへの貸し付けの検討を進めるほか、農業法人・認定農業者・担い手へのほ場の集積・集約化を進める。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	17.8	%	将来の目標とする集積率
			26.35 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
後継者不在の農地は、農業法人・認定農業者による作付けを行うほか、農地中間管理機構に貸し付けを検討し、現在集積している経営体に集積を進める。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
農業法人・認定農業者・担い手を中心に集積・集約化を進め、農地中間管理機構の活用を検討する。
(2)農地中間管理機構の活用方法
農業法人・認定農業者・担い手の経営意向を踏まえるとともに、土地所有者の貸し付け移行時期に配慮しながら農地中間管理機構へのほ場貸し付けを検討する。
(3)基盤整備事業への取組
必要に応じて、今後検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
村田町農林課・農業委員会・農業改良普及センター・JA・営生土地改良区等の関係機関と連携し、多様な経営体の確保・育成に努める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
必要に応じて、今後検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

本地区ではイノシシによる農作物被害が増加しているため、地区の一部では、地域ぐるみによる有害鳥獣侵入防止柵の設置を実施している。侵入防止柵の適切な維持管理を行うことにより、有害獣による被害減少に向け取り組む。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 12 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
	別紙のとおり		ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計			ha	ha		ha	ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。  
 2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。  
 3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。  
 4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。  
 5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報を保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。